様式2

都市再生整備計画　事後評価シート【原案】

安曇野まつかわ地区

令和3年10月

長野県　松川村

様式２－１　評価結果のまとめ

都道府県名	長野県	市町村名	松川村	地区名	安曇野まつかわ			面積	934
交付期間	平成27年度～令和元年度	事後評価実施時期	令和3年度	交付対象事業費		国費率			

1）事業の実施状況

		事業名		
当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	高次都市施設:観光交流センター整備事業 地域生活基盤施設:緑地・広場整備事業 高質空間形成施設:緑町防災公園 バリアフリートイレ,細野駅前バリアフリートイレ整備事業,北細野駅前バリアフリートイレ整備事業,緑町防災公園バリアフリートイレ整備事業 公園:松川中央公園整備事業		
	提案事業	地域創造支援事業:松川村（仮称）子ども未来センター整備事業		
		事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
当初計画から削除した事業	基幹事業	地域生活基盤施設:緑町防災公園備蓄倉庫整備事業	他の補助事業で他の場所に備蓄倉庫を建設したため、村全体の防災計画を見直すとともに、本事業での備蓄倉庫の建設を取りやめた。	事業費10百万円が減額となった。 備蓄倉庫は別事業で建設しているため、指標への影響は、生じない。
	提案事業			
新たに追加した事業	基幹事業			
	提案事業			

交付期間の変更			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	
	当　初	平成27年度～令和元年度		なし
	変　更	平成27年度～令和2年度		

2）都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況

指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み		効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
指標1	観光拠点創出による地域振興	千人	550千人	H26	600千人	H30		635千人	○	あり なし		ちひろ公園の拡充による、農業体験型の観光施設の充実が図られ、指標の達成に繋がった。	
指標2	子育て環境の向上	%	40%	H26	60%	H30		44.50%	△	あり なし	●	地域に無かった子育てしやすく、子ども達がいきいきと交流できる施設の建設により、子育て環境の向上に繋がったが、総合的な子育支援の不足により目標に達しなかった。	令和5年3月
指標3	地域生活環境の向上	%	40%	H26	60%	H31		47.50%	△	あり なし	●	交通の主要施設である駅に、トイレが建設されたことで、地域住民はもとより、観光客も含め快適な環境となったが、地域生活施設の不足により満足度が目標に達しなかった。	令和5年3月

3）その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況

指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
その他の数値指標1												
その他の数値指標2												
その他の数値指標3												

4）定性的な効果発現状況

5）実施過程の評価

	実施内容	実施状況		今後の対応方針等
モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた		
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
住民参加プロセス	公園整備ワークショップ 子ども未来センター建設検討委員会	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	今後も地域住民や地域づくり活動団体等と連携を図り、必要に応じ実施していく。
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
持続的なまちづくり体制の構築	安曇野ちひろ公園サポート隊	都市再生整備計画に記載し、実施できた		今後も、行政主導ではなく、サポート隊（ボランティア）の力を借りて、時代に即した事業を展開し、地元と共に活性化していく。
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●	
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		

様式2－2　地区の概要

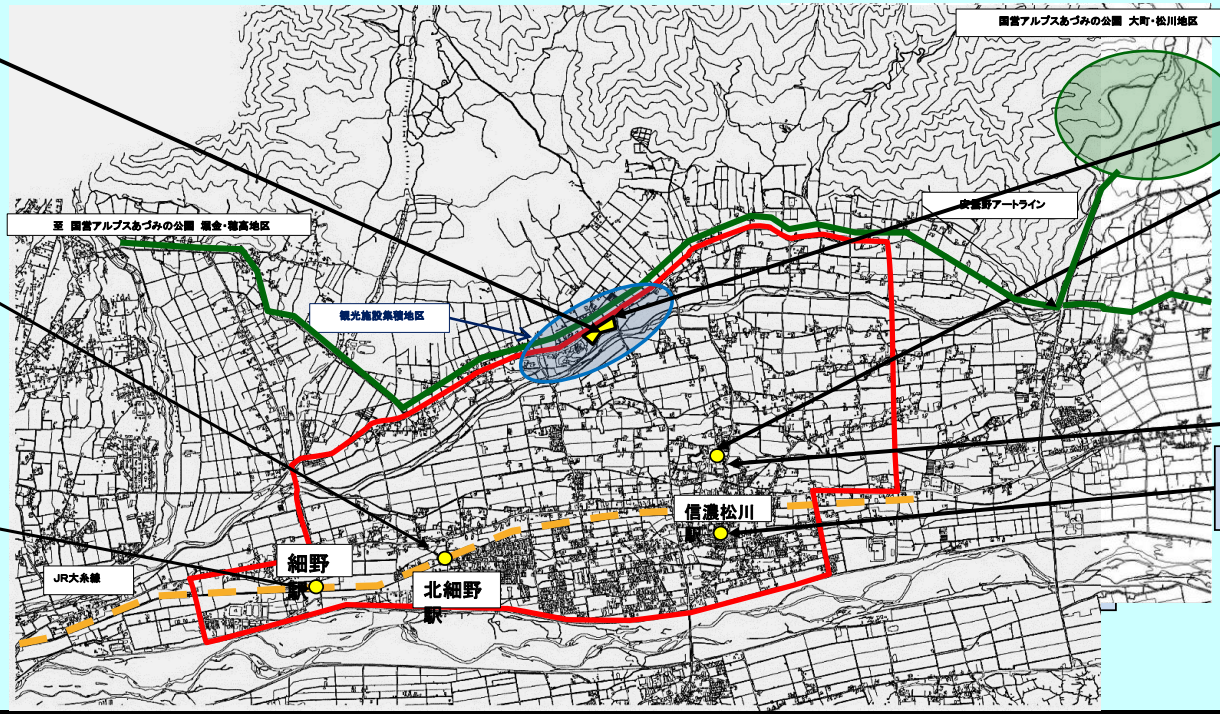
安曇野まつかわ地区（長野県松川村）　都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
本村は、明治22年の町村制施行以来合併などを経験せず、本年村政施行125周年を迎える。平成25年度には厚労省の発表により「男性長寿日本一の村」となった。国勢調査の人口統計では、調査開始以来増加の一途をたどり順調に発展してきている村である。しかしながら近年、全国的な少子化傾向の影響を受け、将来人口推計では減少の見通しとなり、今後地域活力の低下が懸念されている。 こうした中、基幹産業である農業を取り巻く環境も厳しい状況が続き、農・商・工・観それぞれが相互に、魅力と活力ある地域の再構築が求められています。そこで、安曇野らしい田園景観と自然豊かな地域の特性を最大限活かした快適な生活空間と活力ある村の再生を実施する。	観光拠点創出による地域振興	単位：千人	550千人	H26	600千人	H30	635千人	H30
	子育て環境の向上	単位：　%	40%	H26	60%	H30	44.5%	H30
	地域生活環境の向上	単位：　%	40%	H26	60%	H31	48%	H31

■ センターハウス整備事業
基幹事業　高次都市施設

■北細野駅前ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰﾄｲﾚ整備事業
基幹事業　高質空間形成施設

■細野駅前ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰﾄｲﾚ整備事業
基幹事業　高質空間形成施



■緑地・広場整備事業
基幹事業　地域生活基盤施設

■ 松川中央公園整備事業
基幹事業　公園

■子ども未来センター整備事業
提案事業　地域創造支援事業

■ 緑町防災公園
ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰﾄｲﾚ整備事業
基幹事業　高質空間形成施設

まちの課題の変化	課題①安心して子育てができる地域づくり、子育て環境の整備による人口減少への歯止め対策の必要性→18歳までの子どもたちが、自由に遊び情操を養うことが出来る施設として機能している、また、子育てサークルやボランティア活動の充実は図れ、地域で子育てを行う拠点となっている。また、新たに子育て世代を妊娠期から包括して行う支援センターが設置されたことで、松川村の子育て環境の一層の充実が見込まれる。 ◇国営公園間の地域住民と各産業、既存の観光資源と連携がとれた新たな観光拠点の整備→農業体験を通して、観光客と地域住民の交流、情報発信の場として多くの利用者が訪れている。また、隣接する「ちひろ美術館」とのタイアップ企画により都市部からの観光客の誘致が図れ、地元産業にも相乗効果が現れている。 ◇安全安心な住環境と交通環境の整備→駅舎を利用する地域住民や観光客の利便性や快適な環境が格段に向上した。地域防災の拠点に設置されたことで、災害時の機能向上はもとより、防災訓練や避難訓練時の防災意識も向上した。
今後のまちづくりの方策 （改善策を含む）	・新たに整備された子ども未来センター「かがやき」が、より地域住民の子育ての拠点となるように、日常的な利用促進、広域的な子育てネットワークの開拓を行い、安心して子育てが出来る村づくりを目指す。 ・安曇野ちひろ公園体験交流館は、都市部との更なる交流拠点として、恵まれた自然環境や安曇野らしい田園景観等の松川村の魅力を発信し、観光だけでなく移住を含んだ人口増加策の取り組みを行っていく。